

HopStepJump **5** 児童生徒理解を深めるために①

<http://toyono-jinjikyō.com/>

～ユニバーサルデザインの視点に立った
授業づくりや学級づくりについて～

第4回初任者研修は、これまで支援教育に深く携わってこられた豊中市立第十七中学校の矢木克典校長先生にご講義いただきました。タイトルは、「児童生徒理解を深めるために」～ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりや学級経営について～でした。

はじめに支援教育についてこれまでの流れなど丁寧にお話していただき、学級の気になる子どもの様子をグループで交流することから始まりました。交流では、先生方が目の前にいる子どもたちへ思いを馳せながら伝え合う姿が印象的でした。そして伝える側もそれを受け止める側も深刻な顔になったり、にこやかな顔になったり、とても表情が豊かで互いに心を重ね交流していることを感じました。その後、矢木先生は子どもの気になる言動には何らかの理由があり、分析することが大切であることを伝えられ、その一つの方法としてABC行動分析法を示してくださいました。そして「授業中に立ち歩く」という状況にある子どもに対して、グループごとに分析しました。この他にも、「学校で取り組んでいるユニバーサルデザインの授業について」など、グループ交流を数多く織り交ぜながら進めてくださいました。

班で話し合う活動が何回もあり、私の班は小学校の先生ばかりだったのですが、参考になる話がたくさん聞けてよかったです。小学校での工夫を少しアレンジすると中学校でも活用できるものがありました。また、具体的な事例や実際の写真を多く紹介してくださったので、すぐ明日から実行できそうで、ためになりました。普段からユニバーサルデザインには気を配っているつもりでしたが、まだまだ改善できることがあることに気づき、できることから取り組んでいこうと思いました。

自分のクラスの子どものことを思い出しながら「この子には合いそうだな。」「明日からやってみよう。」と思うことができました。子どもがどうしてその行動をするのかということ立ち止まって考えたり、子どもの本質的な願いに気づいたりできるようにならないといけないと思うことができました。明日からの学校生活にも活かしていきたいです。

子ども一人ひとり、クラスによってユニバーサルデザインは違うというお話を聞いて、ハッとしました。今、自分は子どもが何に困っているかを把握できていると言われると正直自信がないです。今、何に困っているのかに気づき、どうすればその子どもにとって良いのかを考えられる教師にならなければいけないと感じました。

気になる生徒に対して、「困った子だなあ。気になる子だなあ。できない子だなあ。」ではなく、「困っている子。気にしてほしい子。できない状況に置かれている子。」という観点で見ることが大切で、教師側の姿勢が大きく変わるのだと責任の大きさを感じました。

講義が進むにつれ、先生方の学びがどんどん深まっていくことを感じました。今までになかった考え方や実践例を知ったとき、“そうか！なるほど！”と心が動くときがあると思います。上手くいかないことがあったとしても、“やってみる！つくってみる！”ことを繰り返すことで、次のステップにつながる新たな気づきが必ずあります。

今、担任している自分の学級で悩むことがたくさんあったのですが、矢木先生のお話を聞いて、ためになるアドバイス・方法がたくさんありました。何か問題行動をとってれば、そこには何らかの理由がある。ただ叱るのではなく、その子どもの実態に合わせて指導し、充実した学級づくりにつなげていく大切さが学べました。今後の学級づくりに活かしていこうと思います。

今まで授業を考える際、内容にとらわれてそればかり考えていたのですが、もっと環境を整えたり、見通しをもたすための工夫をしたりしようと思いました。

「子どもたちの行動には、理由がある。」本当にその通りだと思います。教師の働きで、子どもたちの行動が改善できるなら、そのための行動をしたいと思います。

ユニバーサルデザインは、一つの決まったものがある訳ではなく、その場にいる生徒の実態に合わせて考えてつくっていけるものだと教えていただき、今後の授業に活かしていきたいと思います。様々な認知の方法があることも実感し、自分の認知しやすい方法以外にも焦点をあてて授業をつくっていききたいと思います。それぞれに分かりやすい授業展開を考えるきっかけになりました。

支援教育という観点から子ども理解を基盤とし、授業づくりにつながる話まで広げ講義していただき、できる・わかる道筋が一人ひとりちがひ、学ぶスタイルは多様であることを体験的に学びました。1学期を終えるまであと少し。1学期の経験があり、子どもたちへの温かな思いがあるからこそ、矢木先生の言葉が心に響いたのだと思います。すべての子どもたちがわかる・できる授業づくりの奥深さ、子どもへの理解を深め続けていくことの大切さを改めて感じる研修となりました。

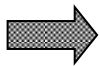
ユニバーサルデザインの視点に立った授業については、『大阪の授業 STANDARD』に掲載されています。

『大阪の授業 STANDARD』

5. 授業のユニバーサルデザインをめざして より抜粋

- | | |
|--------------|----------|
| ①教室・学習環境の整理 | ②授業構成の工夫 |
| ③指示・説明・発問の工夫 | ④複数教材の用意 |
| ⑤認め合う学習集団づくり | |

授業の参考になる具体的な事例も含め、詳しく掲載されています。



『大阪の授業 STANDARD』は、大阪府教育センターのホームページからダウンロードできます。